

ホットテープ取扱説明書

2004/3/3 改

販売者情報

会社 (株)イトーヨーギョー

所在地 大阪市北区中津 6 丁目 3-14

電話 06-6455-2503

⚠ 注意：製品使用前に取扱い説明書を必ずお読み下さい。火傷などの恐れがあります。

必要な工具類：

- ほうき
- ガスバーナー(推奨バーナー：PB-L B80 または 100)
- はさみ
- スケール
- 軍手

(使用推奨機器)

- 温度計・・・貼り付け面の表面温度が測定可能なもの・・・赤外線温度計など
- 水・・・開放時間を短縮する必要がある場合
- タガネ カナツチ・・・端部の加工
- チョーク・・・貼り付け位置の表示

(ホットテープの前準備)

- ①冬季の施工：外気温 10℃以下では、テープの柔軟性を維持し施工を容易にするため、施工前のホットテープを室内などなるべく暖かい場所に置いてください。特に厳冬期に冷たいまま使用されますと商品が硬くなり、割れを生じる場合がありますから十分に注意してください。
- ②製品に、欠損部分や穴が生じた場合でも、簡単にパッチング補修出来ます。この場合でも性能には悪影響はありません。


(舗装表層面の準備)

- ③ホットテープを施工する貼り付け面が濡れている場合は、バーナーで乾燥させてください。
- ④ほうきなどで施工面を清掃し、ほこりや塵を取り除いて下さい。劣化し剥げ落ちかけている既存の標示やテープ標示類は取り除いて下さい。オイルなどの油性残存物は完全に取り除いて下さい。特に油分が路面に残っていると、テープを貼り付けた際に気泡を生じる場合があります。

⚠ 注意：路面には接着剤を絶対に塗布しないでください。テープに剥がれを生じるばかりでなく、
バーナー加熱の際に発火の恐れがあります。


- ⑤打設されてから3ヶ月未満の新しいコンクリート舗装面は、フィラーを砂吹き機などで完全に除去してください。
また、コンクリートの水分は予熱して十分に乾燥させてください。不十分な場合、加熱によりコンク

シートがはじけ飛ぶ恐れがあります。コンクリートは一部に偏って加熱しないでください。割れを生じる場合があります。

 **注意:**コンクリート面を加熱する場合には、**コンクリート片がはじける恐れがあります。**

防護めがねの使用をお勧めします。


- ⑥ホットテープを施工する貼り付け面に、極端に浮き出ている骨材は除去して下さい。
- ⑦チョーク等で表示をする場所をレイアウトして下さい。
- ⑧貼り付け面をガスバーナーで、120℃以上になるように加熱してください。厳冬期のコンクリート面、タイル面などは温まりにくいので、十分に加熱してください。

 **注意:** 確実な施工のためには、約1 mずつ程度に分けて貼り付け作業されることをお勧めします。

貼り付け面の加熱が不十分ですと、剥がれ等の原因となりますので、特に冬季の施工時には御注意ください。

(施工)

- ⑨最終レイアウト：貼り付け面の加熱の完了後直ぐに、ホットテープを置いてください。
- ⑩熱が製品全体に均等に伝わるよう、ガスバーナーを約30 cmの高さから円を描くようにして、ホットテープの全体を加熱溶解して下さい。軟化とともにホットテープは完全に施工表面になじみます。加熱中、製品が泡立ったり煙がでる場合があります。また、製品が白色の場合、微かに淡い黄色に変色しますが、これらは適正な付着温度に達した際に起こる現象で、製品は温度の低下とともに本来の色に戻ります。また、チューインガムのような外観が適切な付着を示します。ホットテープを継ぎ足し施工する場合には、既存のホットテープに完全に引っ付けて施工すれば、継ぎ目がほとんど目立たなくなります。

 **注意** 施工直後のホットテープには直接素手で触れないで下さい。**火傷の恐れがあります。**

- ⑪完全な貼り付け面への付着を行う為には、特にホットテープテープの端面を十分に溶解してください。
- ⑫ホットテープは、施工後2～3分で冷えて固まりますが、必要であれば散水することにより硬化時間は更に短縮されます。散水はシャワー状とし、上部から静かに散水してください。
- ⑬ホットテープは、縦方向の継ぎ目やジョイント部分、亀甲状のクラックが生じているような傷んだ舗装面、または油がしみ込んだ舗装面での施工には薦められません。
(経過とともにひび割れ等を生じる恐れがあります)

(点検)

- ⑭製品が冷えた後、パテ用ナイフ等で製品の一部を剥がし、その部分が容易に剥がれるようであれば、剥がした部分を元に戻し、再度加熱してください。

以上